

令和7年度 第1回我孫子市商業観光まちづくり委員会（分科会2）
会議概要

1. 会議名称	令和7年度 第1回我孫子市商業観光まちづくり委員会（分科会2）
2. 開催日時	令和7年4月18日（金）
3. 開催場所	—（書面開催）
4. 出席者	<委員> 中井副委員長、池松委員、館野委員、谷口委員、熊本委員、嶋田委員 <事務局> 商業観光課 秋田課長、迫田課長補佐、大阿久係長
6. 報告	報告第1号 日本版持続可能な観光ガイドラインについて 報告第2号 サステナビリティ・レポートについて
7. 配布資料	JSTS-Dチェックリスト診断結果
8. 公開・非公開	公開
9. 傍聴人	—（書面開催）

会議の内容

報告第1号 日本版持続可能な観光ガイドラインについて

JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）について、事務局より説明した。

<事務局の説明>

- ・我孫子市は、我孫子市商業観光まちづくり大綱において、観光庁と国連世界観光機関（現・国連観光）が策定したJSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）に取り組むこととしている。
- ・JSTS-Dは、持続可能な観光の推進に資するべく、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標である。
- ・委員の皆様には、データ提供、意見ヒアリング、調査等の実施等への協力をお願いする。

<質問・意見>

（委員）委員に期待されている役割は、市に意見等することなのか、自己の取組

みを改善することなのか。

(事務局) 委員の任務は、市の施策に対する提言である。もし、この委員会への参加が契機となり委員ご自身の事業や活動のサステナビリティが向上するならば、それは地域としても喜ばしいことではあるが、委員としての任務は市の施策に対して提言をいただくことである。

報告第2号 サステナビリティ・レポートについて

事務局が作成した令和6年度の自己分析結果について、事務局より説明した。

<事務局の説明>

- ・我孫子市は、JSTS-Dに基づく自己分析結果を令和5年度から毎年作成している。
- ・JSTS-Dに備わっている、コミュニケーションツールやプロモーションツールとしての機能を発揮するには、自己分析の結果を公表する必要がある。また、そのこと自体がガイドラインA3「モニタリングと結果の公表」に定められてもいる。

<事務局による自己分析結果>

- ・トータルスコア 62pt/100pt
- ・SECTION A 80pt/100pt
- ・SECTION B 50pt/100pt
- ・SECTION C 62pt/100pt
- ・SECTION D 56pt/100pt

<質問・意見>

(委員) A11の定量的な計測結果とは、JBFや花火の数値か？ 毎月の数値があれば見せてほしい

(事務局) JBFや花火も含むが、民間の観光施設も含む。「千葉県観光入込客数調査」作成のため調査する過程で毎月の数字が把握できているが、民間の協力施設の動向が分かりかねないため、公表は難しい。

(委員) A5の事業者とは、今後立ち上げようとしているDMOのことか？

(事務局) DMOだけでなく、観光事業者全般を指している。GSTCは地域と産業が連携するように作られているので、産業もGSTCに取り組めば、地域と産業の価値観が揃うので進捗しやすくなるという仕組みである。

(委員) A 3 ②の目標を明示し、それに対応する調査結果を公表している地域・団体はあるのか？

(事務局) 例えば、ハワイ州観光局では、住民と観光客の満足度を調査し、戦略としている。

(委員) A 3 ②の目標について、市では今後、この目標設定を行う予定はあるか？

(事務局) 市では、我孫子市商業観光まちづくり大綱において、市がする観光振興の目標として、日常生活に必要なお店の立地・満足度とシビックプライドを掲げている。これらは定量化が可能な目標で、J S T S - D に適合するものと考えている。